

研究報告

福井県地方の衛生上有害な動物について (その5)

ドクガ *Euproctis flava* Bremer

福井県衛生研究所 福島 俊 定

昨年6月下旬より7月上旬に亘つて、三国町近辺に発生した毒蛾により附近民が或る程度の被害を受けた事に就いては新聞等にも報じられたところであるが、発生当初の状況に就いて県衛生課の山本技師より若干知ることができたが、充分とは思われない。尚筆者も不幸にして現地の調査をなし得なかつたために結局同地では採集された蛾 (2♀♀, 1♂) を検して、発生種がドクガ *E. flava* であることを確認したにとどまつた。

従つて、こゝで詳細に報告できないのは残念であるが、このようなドクガの問題にはじめて当面した筆者は知識の不備を感じて、その後種々文献により調べてみたので、疫学的な点を主に「メモ」^①として記してみたいと思う。

ドクガは夜蛾上科 (Noctuoidea)、ドクガ科 (Lymantriidae) に属し、果樹や観賞用植物を害することが知られているが、近年名古屋を中心とした異常大発生、或は大坂、神戸、東京、岡山等各地で発生が相次ぎ、而も毛刺によつて皮膚炎を起すなど人体に対する被害も極めて大きく、世人の注目するところとなるに至つた。

毒蛾の大発生は古くから日本の各地でみられていたものであるが、最近になつて急に騒がれ問題視されるに至つた理由として、緒方 (1958) は次の様に推察している。

- ① 最近の発生地域が都市の周辺に多く、従来の農村山村であつたことに比べて問題を大きくしている。
- ② 衛生害虫に対する関心が高まつたために異常な注目を引かせた。
- ③ 都市における照明 (ネオン燈や街燈) の発達が元来野外性昆虫である毒蛾を誘引し、また都市人口の膨大化に伴い郊外への進出がこれらの昆虫との直接接触を招いた。
- ④ この分野の研究が立ちおくれていて、早急の防除対策や、治療対策をたてることが出来ず、心理的、不安や無知による被害の増大を招いたことが問題を益々大きくした。

この様に新しく衛生害虫としてとり上げられるようになった毒蛾について、福井県に於ける過去の発生記録を調べてみると、大正10年に唯一回発生しているが、地理的にも類似な点の多い石川、富山等の北陸の近県では過去数回の発生をみており、被害のあつたことも明らかにされている。こうした発生頻度の違いをみたところでは、本県の場合には記録に残らなかつた発生が幾回か有つたのではないかと考えも持たれ、亦一方では毒蛾の分布にも濃淡があることを示しているとも解されよう。

日本産の *Euproctis* 属は現在10種知られているが、「福井県昆虫目録」(昭和8年10月)によつて本県での採集記録をみると、和名に「〜ドクガ」と付されているものが15種にの

ほり、このうち明らかに既知の日本産種と同じ種類とみられるものは、次の5種と思われる。{ }
内は「福井県昆虫目録」での種名及び採集記録を示す。

モンシロドクガ *E. similis* (Fuessly)

{モンシロドクガ *Arctornis chrysorrhæa* Linnaeus}

大飯(佐分利)県下一円

チャドクガ *E. pseudoconspersa* Strand

{チャドクガ *Nygmia conspersa* Butler}

坂井(伊井) 円生(立待) 福井、敦賀、三方

フタホシドクガ *E. standingeri* (Leech)

{フタホシドクガ *Nygmia standingeri* Leech}

大野(鹿谷)

ドクガ *E. flava* Bremer

{ドクガ *Nygmia subflava* Bremer}

遠敷(小浜)県下一円

キドクガ *E. piperita* (Oberthur)

{キドクガ *Porthesia piperita* Oberthur}

大野(勝山)

他の10種即ちチャナギドクガ、キアシドクガ、エルモンドクガ、ニハトコドクガ、スケドクガ、スギドクガ、マメドクガ、ブドウドクガ、シロオビドクガ、クロモンドクガに就いては既知種のどれに当るものか判然としないので、標本でもあれば調べてみたいと思つている。

前記5種の分布或は疫学的特徴に就いてみると、

E. similis

日本全国にわたつて平地から山地にかけて分布し、桑、桜の害虫として広く知られている。桑にいる幼虫は蚕児や養蚕従事者に害を与えるため養蚕業者には注目されていた。被害は従つて養蚕業地帯にかなり多い様であるが、幼虫に限局したものが多く、亦蚕に対する加害が主であるので、衛生害虫としての意義はそれほど高くないようである。

E. piperita

平地から山地にかけ分布するが、まだ被害を聞かないし、発生量の点でもまず問題が少ない種である。

E. Standingeri

エノキを食草とし、一度発生すると害木の周辺一帯が幼虫によつてかなりの被害を受けるようである。しかし、従来の被害例は少い。

E. pseudocomspersa

茶樹の害虫として、食害或は人体に対する加害で知られる。この種の被害の特徴は幼虫によることが多い点である。即ち、幼虫の食草が殆んど庭木であるツバキ、チャ、サザンカ等であつて、かなり普通に庭木として植えられているため、こゝに寄生する幼虫と人間が接触する機

会が多いためと考えられている。しかるに住宅の近くでかなり多数発生していると思われる成虫による被害が非常に少ないことは、むしろ奇異である。

E. flava

幼虫はコナラ、ツツジ類、イチゴ類に好んでつくが、コナラ、クヌギのような灌木林に多いため、人間との接触は比較的少く、従つて幼虫による被害は少ないが、E. flavaが他の種と顕著に異なる点は異常大発生をすることである。このとき局地的ではあるが大きな被害を受け、特に棲息地が人家附近であれば、燈火を求めて集まる成虫により大きな被害が起る。E. flavaによる被害は成虫による場合が多く前種と対照的である。一般に毒蛾と言つて騒ぐ種は多くの場合本種に限られ、時々幼虫による被害としてE. pseudoconspersa が散見されるのが実状の様である。

尚九州から北海道にかけ広く分布する。

E. flavaに就いて朝比奈、緒方(1956)、及び緒方(1958)は特に発生の多い地方を府県別に、秋田、岩手、宮城、新潟、石川、富山県を含む北日本ブロック、東京、千葉ブロック、岐阜、愛知ブロック、兵庫、岡山ブロックの4つに分け、このような分布を規則する環境要因として温度を主にした気象環境の他に立地環境を大きく考えており、大発生地に共通した幼虫棲息環境として低い灌木叢林と瘠悪土壌の丘陵地帯が多い事を指摘している。

今回の三国地方の発生をこのような点から眺めてみると、一応うなずける点がある様にも思われる。

最後にドクガによる皮膚炎は幼虫由来の毒針毛によつて起るが、皮膚炎の症状には丘疹型とじんましん型が見られる。丘疹型は毒針毛に触れると粟粒大のブツが罹患部一面にできて非常なかゆみを伴い、そして搔くと段々膨れ上る。

じんましん型は罹患部が大きくふくれ上り拡がるもので、非常にかゆみの強い型で全身症状を呈する事が多い。

このような被害は毒針毛のもつ毒物による事は認められているが、この物質が如何なるものか現在不明である。森下(1955)は毒物の他に毒針毛自身の機械的刺戟も皮膚炎の原因をなしているとの見解を持つているが、これら毒物、機械的刺戟に加えて人体側の感受性の大小なども考えられて、毒蛾皮膚炎に就いても亦興味の深いものがある。

参 考 文 献

- (1) 素木得一(1958)：衛生昆虫，北隆館，東京
- (2) 朝比奈正二郎、緒方一喜(1956)：日本に於ける昭和30年及びそれ以前のドクガ発生記録；衛生動物、7(2)：104
- (3) 武衛和雄(1955)：1955年大阪府における毒の異常発生について、10回衛働西日本大会抄録：25
- (4) 石崎達、永井隆吉(1957)：ドクガ毒の臨床的研究、衛生動物、8(2)：99
- (5) 緒方一喜(1958)：ドクガEuproctis flavaとその病害に関する研究。第2篇，生態学的研究、衛生動物、9(4)：203

- (6) 緒方一喜(1958): ドクガ *Euproctis flava* とその病害に関する研究
 第3篇 疫学的研究、衛生動物、9(4): 228
- (7) 逢坂昭(1957): ドクガ毒の化学的性質、衛生動物、8(2): 99
- (8) 徳永雅明(1942): 毒蛾及び毒毛刺齧症、送用昆虫学、上: 249
- (9) (1933): 福井県昆虫目録

福井県のハネカクシについて

井 崎 市 左 衛 門

ハネカクシ類は小形のものが多く、採集は大変困難なものですが、ハネカクシ採集の天才家福田久美氏の応援を得て多数を集める事が出来た。小形のもが多くて名称の同定は困難であるが、中根先生と同氏の研究員沢田高平氏の御同定に依り目録を作る事が出来た。

ハネカクシの小形ものは方言コシボソと呼ばれ、噛まれると何時迄も痛いので特に嫌われる。腐肉に依る採集も出来るし、灯火にも飛来する。キンバネハネカクシ、オオアカバハネカクシ、ナミクシヒゲハネカクシ、サビハネカクシ等比較的大形のもの、アオバアリガタハネカクシ、クロツヤハネカクシ等、ハツキリわかり易いものもあるが、平均2.3ミリ位から5ミリ位のものも多く同定の困難なものが多いので、見分け易いように北陸館の昆虫図鑑(略して北)保育社の昆虫図鑑上(略して保)の番号を記入する事。尚今後新しく発見されるものも多いと思う。本目録を作るに当り御多用中にも拘らず御同定、配列の勞を取つて下された、京都府立大学の中根先生、同研究室の沢田高平氏、多数の標本を寄贈して下さいました。福田久美氏の御厚意を感謝します。目録にあげてある産地は福井市郷土博物館に有るもので、其の他の地方でも採集出来るが、小形の為め見落とし易い。

昭和35年3月9日記す。

RCOLEPTERA 翅 目

1 P OLYPHAGA 夕 食 亜 目

STAPHYLINIDAE はねかくし科

1. *Piestneus lewisi* Sharp オオヒラタハネカクシ 田代(福田)
 北. 2881 保. 259
2. *Eleusis coarctata* sharp オオウスバハネカクシ 田代(福田)
 北. 2882
3. *Olophrum arrowi* Scheerpeltz アロウヨツメハネカクシ 池泉(福田)
 北. 2881 保. 265
4. *Lesteva fenestrata* Sharp フタモンヨツメハネカクシ小舟渡(土肥)
 保. 267
5. *Osorius taurus* Sharp フトツツハネカクシ 池泉(福田)